



## ↓ 2月17日（土）平成30年度 海外派遣研修説明会のお知らせ

日比谷高等学校は、来年度も引き続き、文部科学省「SSHスーパーサイエンスハイスクール」による海外派遣研修及び東京都教育委員会「東京グローバル10」による海外派遣研修、姉妹校提携によるニュージーランド Columba College でのホームステイを含めた海外派遣研修を実施します。

来年度、海外これら海外派遣研修に参加希望、関心のある生徒の皆さん及び保護者の皆様は出席して下さい。

<b>日時</b>	2月17日（土） <b>第一部</b> 午前9時00分～午前10時00分 「SSH海外派遣研修」説明会 <b>第二部</b> 午前10時15分～午前11時15分 「東京グローバル10海外派遣研修」説明会 <b>第三部</b> 午前11時30分～午後0時30分 「ニュージーランド Columba College 姉妹校研修」説明会
<b>場所</b>	会議室（2階）
<b>対象</b>	来年度海外派遣研修に参加を希望する生徒及び保護者
<b>内容</b>	実施の趣旨、事前研修、及び実施行程、内容 参加者の選考方法、参加費用、今後の予定
	※当日は、希望される説明会のみ参加も可能です。

## ↓ 初の韓国姉妹校交流海外派遣 3月に「ミチュホル外国語高等学校」へ

本校の姉妹校である韓国「ミチュホル外国語高等学校」への派遣生徒10名が決定しました。昨年の10月に韓国から10名が来日しましたが、今度は本校から訪韓します。記念すべき初の韓国姉妹校派遣であり、充実した交流としたいものです。派遣期間は3月24日から27日で、現地ではホストファミリー宅に滞在し、ミチュホル外国語高等学校で生徒たちと交流します。

今はまさに平昌冬季オリンピック・パラリンピック開催直前であり、派遣時も同大会が終わって1週間という時です。記憶に残る派遣となることと思います。

本校の韓国姉妹校交流の目標の一つに次のようなものがあります。

『日常の交流と信頼関係の構築により、将来的に、国際問題が生じた場合に両国が協働して対処できる関係にまで発展させることができる』

（「平成29年度姉妹校交流『ミチュホル外国語高等学校 海外派遣』説明会用資料より」

歴史的にも関係の深い両国の友好は、互いの、そして世界の未来のためにも大きな意味があることと思います。事前学習をとおして同国への知見を深めながら、現地での交流を最大限に楽しみ、交流を実りあるものにしていきましょう。

初めての韓国訪問なので、まずはホストファミリーとの観光を楽しみにしています。更に、韓国の寮制の高校で生徒達と学校生活をともにできるのが面白そうです。現地での授業にも積極的に参加して韓国の高校生活を味わってきます。4日間韓国で様々な経験をして、国境を超えた交流を実現させたいです。

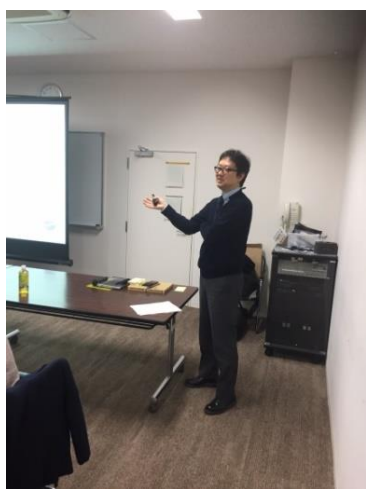
私はこの派遣において、出会う人1人1人との関係を大切にしていきたいと思っています。日本と韓国との文化の類似、または相違点を中心に隣国への理解を深めると共に、ホームステイ先の家族やミチュホル外国語高等学校の生徒に日本文化を少しでも伝えたいと考えています。姉妹校提携後初めて日比谷高校の代表として派遣していただくため、日比谷生として恥ずかしくない行動を心がけたいと思っています。

## ➔ 1月16日 「交流のためのことばを考えるワークショップ」

～ 国際文化フォーラム 中野敦氏 講演会 ～

1月16日、本校大会議室において、公益財団法人「国際文化フォーラム」の中野敦氏より、「交流のためのことばを考えるワークショップ」というご講演をいただきました。

大変興味深い内容でした。例えば、韓国では「共に食事をする」ということが大きな意味をもつよう



です。友好の証であり、良好な人間関係を構築することにおいて大きな役割をもつそうです。日本では、ある種の気遣いから、「食事は各自でご自由にお取りください」という場合もありますね。しかし韓国では、それは必ずしも気遣いにならないのです。したがって、「一緒にごはんを食べましょう」という意味の表現が必然的に韓国語では豊かになるのです。

このように「ことば」は、社会生活や文化と密接に関連していて、単にことばの規則を覚えたり、語いを増やしたりすることだけでは不十分です。その「ことば」の話者と「交流」するには一体どんな「ことば」が必要なのか？中野氏は非常に親しみやすいトーンでお話をしてくださいましたが、テーマは非常に深く、哲学的な部分もありました。教員

にとっても、示唆に富む内容でありました。

### 【参加者の感想】

「相手の嫌がることをしない」という心がけはとても納得した。他の文化の人と交流するためには、伝えたいという気持ちを持ちながら、対話をするのが大切であることを学んだ。（12R Uさん）

「交流」そのものに目を向けながら、異国・異文化の人々とのコミュニケーションなどについて考察したのは初めてのことだった。同じグループの人と盛んに議論を交わしながら、今まで気づかなかったことにたくさん気づかされ、とても新鮮な体験になった。（16R Kさん）

今、オンライン英会話などでも伝わらないことが怖くて辛い思いをすることがあるが、もっと文化交流に対して積極的な態度をもってみようと思った。（15R Mさん）